

香料アレルギー

現在は、至る所に多彩な香りがあふれるようになりました。いつ頃からか、香りは本物ではなく、合成香料、多くは石油、石炭、パルプ工場から造り出されているのですが、今や3000種を超えているといわれます。食品だけでなく、医薬品にも多くの香料が添加されています。それに伴い、香料アレルギーの方も増加してきました。

風邪を引いてから、喘息発作が続く為、原因を調べた結果、喘息治療薬に添加されていたスモモミルク香料にのみアレルギーがあり、その薬をやめたら喘息が治りました。ジスロマックドライシロップ（抗生物質）に添加されていたコーラコートンという香料により、アナフィラキシーショックを起こした幼児もいます。これらは、薬剤によるリンパ球刺激試験でそれぞれの香料アレルギーが確認されました。

香料の中には、依存症を起こすものが見られます。あるメーカーのスポーツ飲料が大好きな幼児は、特にその香りが気に入っているようで、日に何度も、また夜中にも起きだして欲しがると、そのメーカーのものをダース買いしていると言います。アルコールやニコチン依存症と同じような状態だと思いました。

ある乳飲料でも添加された香料により様々なアレルギー症状が引き起こされた為、香料の種類を教えてもらったのですが、11種類もの香料がブレンドされていました。その為に多くの香料添加物に反応を示したのです。

最近、特に気がかりなのは、洗剤、柔軟剤、芳香剤、ヘアケア製品などです。これらは、近年、特に香料使用が多彩になってきていると思います。合成洗剤の香りにアレルギーがあった方に聞くと、初めは、何か嫌な香りだなと思っていても、次第に気にならなくなり、そのうち好きな香りに変化した為、使い続けていたと言うのです。

また、これらの強い臭いに耐えられない化学物質過敏症の人も増加しています。友人たちの服や髪の手洗剤の臭いの為、教室に入れなかったり、教室で気分が悪くなったり、頭痛や腹痛が起きたりしています。子供さんが平気でも、服や髪についていた合成洗剤の移り香で、母親が、気分が悪くなったり、化学物質過敏症の様々な症状が出て困っている人も増えています。

香料アレルギーの方々には、豊かで自由な社会の中で、安全な空気を吸う事の出来ない不自由さ、自分にも環境にも安全な本物が少なくなっていく貧しさを、身をもって実感しているのではないのでしょうか。

香料は、表示する義務がある為、ラベルを確認して、香料が含まれているものを取らないようにすることが出来ます。除去を続けると、良くなって来ますが、香料アレルギーは、再発しやすいので、常に気を付けることが大切です。